

| 科目分類   | 専門職の教育  |         |    | 開講学科 | 医療情報学科 |
|--|---|---------|----|------|--------|
| 科目番号   | 学年  | 配当セメスター | 区分 | 単位数  | 授業時間数  |
| 15114  | 4   | 前期      | 必修 | 2    | 30     |
| 授業科目名<br>(英文)  | 診療プロセス論Ⅲ (総合支援)<br>(Clinical Process Ⅲ)       |         |    |      |        |
| 担当教員名  | ◎瀬戸 僚馬 / 柴野 荘一                                |         |    |      |        |
| 授業の概要及び到達目標  |   |         |    |      |        |
| <p>○概要</p> <p>保健・医療・福祉サービスは、人のライフコースごとに発生する健康問題に対して、一定の関連性を持って提供されるものである。医療情報の専門家としては、こうしたライフコースを理解した上で、サービスを提供する多様な職種の業務プロセスと、その業務に必要な情報の概要を理解していることが重要である。本科目では、疾患を予防および早期発見するためのサービス、また疾患または加齢によって損なわれた機能を回復するためのリハビリテーションや生活機能を支援するためのサービスなど、急性期医療の前後に生じる総合的な健康支援に重点を置いて概説する。</p> <p>○到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①予防、リハビリテーション及び生活支援に関わる職種と、これらの職種が提供する保健・福祉サービスの概要を説明できる。</li> <li>②予防、リハビリテーション及び生活支援の背景となる医学的根拠について説明できる。</li> <li>③予防、リハビリテーション及び生活支援のプロセスにおいて、どのような診療情報が発生しているか説明できる。</li> </ol> |   |         |    |      |        |
| 準備学習等  |   |         |    |      |        |
| <p>○予習について</p> <p>それぞれの職種の業務について、医療情報技師テキスト（医学・医療編）を使用して復習しておくこと。</p> <p>また余裕があれば、新聞社のウェブサイト等を利用して、その職種の最近のトピックスを検索し、読んでおくことが望ましい。</p> <p>○復習について</p> <p>本科目は診療プロセス（臨床的側面）に比重を置いているため、制度的側面に割ける時間は限られている。このため、制度についてはテキストを読み直して復習しておくことを推奨する。また、医療情報技師試験の関連問題を解いておくことが望ましい。</p>  |   |         |    |      |        |
| 成績評価の方法  | 小テスト（30%）、定期試験（70%）                           |         |    |      |        |
| テキスト   | 日本医療ソーシャルワーク研究会：医療福祉総合ガイドブック<br>2018年度版（医学書院） |         |    |      |        |
| 参考図書   | 高橋 紘士：地域包括ケアシステム（オーム社）                        |         |    |      |        |

|  |  |
|--|--|
| 備 考  | <p>理解を深めるため、リハビリテーションや介護等の現場に見学に行く機会を検討する。授業時間数には含めないが、積極的に参加することを期待する。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連については、別途明示している各学科の履修系統図をご確認ください。</p> <p>オフィスアワーは基本的には火曜日ですが、詳細はデスクネッツを確認してください。</p> |
| 授 業 計 画  |  |
| <p>○予 防</p> <p>第 1 回：疾病の予防と治療、復帰に関わるプロセスとそれに関わる職種<br/>一次予防、二次予防、三次予防のプロセスを復習し、これに関わる職種の多様さを理解する。</p> <p>第 2 回：保健師の仕事<br/>地域診断など集団を対象とした保健師の業務と、そこで発生する健康情報に関して理解する。特定健診、特定保健指導などに用いる情報の標準化についても理解を深める。</p> <p>○リハビリテーション</p> <p>第 3 回：リハビリテーションに関わる職種・部門の概要</p> <p>第 4 回：理学療法士、作業療法士の仕事、言語聴覚士の仕事</p> <p>第 5 回：視能訓練士、義肢装具士の仕事<br/>基本動作、応用動作の評価とその向上に努める各療法士の業務と、そこで発生する診療情報の概要について理解する。病院はもちろん、介護施設や在宅等で行われるリハビリテーションについても学習する。</p> <p>○在宅医療</p> <p>第 7 回：在宅医療の概要</p> <p>第 8 回：在宅医療（医科）に関わる職種とその仕事</p> <p>第 9 回：在宅医療（歯科）に関わる職種とその仕事<br/>治す医療から支える医療へのパラダイムシフトが進む昨今、在宅医療への理解も重要である。特に居家で健康を維持するためには「食べる」機能が重要であり、医療保健学部学生としての医療コラボレーションの観点からも重要な視点である。このため医科・歯科の双方に関して在宅医療の概要を学ぶ。</p> <p>○緩和ケア</p> <p>第 9 回：緩和ケアの仕組み</p> <p>第 10 回：緩和ケアに関わる職種の仕事<br/>世界最長の平均寿命を誇るわが国は、いかに長く生きるかから、いかによき最期を迎えるかも大きな社会課題になっている。緩和ケアチームなどの役割を理解しつつ、本人や患者への情報提供のあり方についても学ぶ。</p> <p>○福 祉</p> <p>第 11 回：福祉に関わる職種や行政の概要</p> <p>第 12 回：地域包括ケアシステムの概要</p> <p>第 13 回：社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の仕事</p> <p>第 14 回：介護支援専門員（ケアマネジャー）の仕事<br/>今後の地域包括ケアシステムは、介護に携わる職種によって維持されているといっても過言ではない。これらの職種の業務と、そこで発生し、連携される情報について学習する。</p> <p>第 15 回：まとめ</p> <p>※授業の進行上、第 1～14 回は入れ替えることがある。</p> |  |